

# 1. 調査報告概要表

作成日平成21年9月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1070501166
法人名	社会福祉法人 敬友会
事業所名	グループホーム さくらの里
所在地	群馬県太田市中根295-1 (電話) 0276-32-1126

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成21年7月28日

【情報提供票より】(21年7月14日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 1 日		
ユニット数	12 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8 人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 平屋 造り
	1 階 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	230 円	昼食	320 円
	夕食	530 円	おやつ	100 円
または1日当たり				

### (4) 利用者の概要(7月14日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	66 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	林外科、堀江病院、くろいわ内科、伊丹歯科
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「お一人お一人の気持ちを尊重し、住み慣れた地域で安心して過ごせるようにします」の理念通りに、職員は利用者のできる事をたくさん見つけて、持っている力を引き出しながら、共に暮らす仲間として生活している。お互いに助け合いながらも毎日を特別なことをするわけではなく、それまで生活していたそのままを支えているホームである。職員が利用者をさりげなく気遣う場面が多々あったり、ホールにはテーブルが4つあり、各テーブルには気の合うお仲間同士でなごむ姿が見受けられた。工夫を凝らしながら、まじめに支援に取り組んでいるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>現状に即した介護計画の見直しでは、月に1回のモニタリングと3ヶ月に1度の見直しをして改善されている。水分確保の支援については摂取目安を1000cc以上と定め、摂取量のチェックを行い改善された。改善への取り組み方は、管理者・職員が一緒に行い努力の跡が伺える。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、代表者と管理者が作成した。完成後職員は目を通してはいない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議はホームの状況説明や外部評価結果・スプリンクラーの設置・職員待遇や待機者の様子等についての報告や質問、ホームの行事報告等がされている。取り組みとしては地域の方々からの認知症の相談を受けたり、研修生の受け入れも行った。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>管理者は家族には苦情や不安があるに違いないと思っていて、その気持ちや内容をくみ取れるように努めている。家族に対しては訪問時に、「気持ちのいい言葉よりも言いにくい事も話してほしい」旨を発信している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時に近隣の人たちと挨拶を交わしたり、ホームに立ち寄ってもらえるように声をかけている。併設のデイサービスに幼稚園。保育園・小学校の児童が遊びに来たり、老人会・婦人会のボランティアが来所しているので、利用者とは出かけに行き、交流に参加している。</p>

## 2. 調査報告書

(    部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所がめざす地域密着型サービスのあり方を端的に示した、独自の理念を職員全員で考え、作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は申し送り時・カンファレンスの場で理念に触れ、確認している。実践のケアの場で、生かせるように意識して利用者の気持ちを考えるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人々には散歩時に挨拶をしている。併設デイサービスに地元の保育園・幼稚園児や小学校の児童、老人会・婦人会の訪問があるため一緒に参加し、交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表者・管理者、職員は前回の評価結果について、スタッフ会議で話し合いを持ち、改善に向けて努力した。今回の自己評価については代表者と管理者が作成した。全職員に意見を聞いたり、話し合いまではしていない。	○	外部評価結果についてはスタッフ会議で話し合っているため、自己評価についても、日ごろのサービスについて確認のために、代表者・管理者、職員で検討して、皆で作りに上げてほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は偶数月の第1木曜の18時よりと定め、概ね2ヶ月に1度開催されている。サービスの状況報告や行事報告・外部評価結果の報告・職員待遇について話し合いを行っている。委員から出された意見等はサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には利用者の事情等についての相談や、介護保険の申請代行等で市へ出向いている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に金銭管理の報告や行事・生活の様子を報告している。また、家族便りでも生活状況等を報告している。身体状況の変化や受診等では随時電話にて連絡を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は「家族には苦情や不安があるに違いない」と思っていて、その気持ちや内容をくみ取れるように努めている。家族に対しては訪問時に、「気持ちのいい言葉よりも言いにくい事も話してほしい」旨を発信している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現状ではここ1年異動は無い。異動が発生する場合は、挨拶等の基本的なことから教え、日常業務では概ね2週間(夜勤は2~3回)先輩職員が基本的な対応の仕方等を指導しながら共に支援にあたり、スムーズに移行できるよう配慮する予定でいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修、リーダー研修を受講している。介護福祉士資格には資格手当が付いたり、ケアマネジャー試験に合格したりと、資格取得には協力体制がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入している。交換研修に参加している。研修参加には目的意識を大事にさせている。地域密着型サービス連絡協議会の東毛地区研修会にも出席している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の安心のためと家族の希望でホームで一緒に1泊過ごしたこともある。家に伺ったり、ホームに出かけてもらう場合は、他の利用者と一緒に過ごしてもらい、馴染んでいただけるか様子を見させてもらっている。一人ひとりの事情を共有しようと努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごすことで、悩み・悲しみ・喜びを共有するようになってきている。人間対人間の付き合いを感じている。日常的な生活の場においては、七夕のおまんじゅう作りやすいとん・うどん作りを教えてもらい一緒に作っている。季節の行事でも力を発揮してもらっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活をどのように過ごしたいか聞き取ったり、生活暦から想像したりして望む暮らしを支えている。家族からも若いころの様子を伺うこともある。そこから出来ることを探って日々の支援に繋げている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等から満足できる暮らしのための意見を聞き、月に1度のケア会議で職員は検討し、本人・家族とも話し合い介護計画を作成している。職員は1人～2人の担当制でそれぞれ、観察しながら介護計画に結びつけ家族からは電話でも意見を聞いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度と介護記録や月に1度のモニタリングを基に状態の変化に応じて現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族等の希望や状況に応じて、通院・送迎・理・美容や家を見に行く等の個々の満足を高めるように努力しながら支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等の意向を確認し、協力医の他に希望するかかりつけ医や訪問歯科で適切な医療が受けられる。基本的には家族同行での受診・通院を行っているが、家族等の状況や緊急時には職員が代行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在はまだ重度化や終末期におけるホームとしての指針等は作成されていない。しかし、家族とは意思確認をしたりしながら、ホームの方針等をまとめている段階である。	○	ホームとしての終末期や重度化への対応を家族・ホーム・かかりつけ医等と共有するためにも、まずは指針として文章化しておいてほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への対応として呼び名は名字で呼んでいる。言葉かけや対応等で一人ひとりの尊厳を傷つけないよう、スタッフ会議や介護の現場で確認し合っている。個人ファイル等の記録や個人情報の取り扱いに関しては、職員には秘密保持の徹底を図るよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望や体調に配慮しながらその時の気持ちを聞き取ったりして尊重しながら、施設の流れに合わせて無いうように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
tok					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握するために、献立の希望を聞きお刺身等は買いに行ったりすることもある。力量に応じて、調理や味見・後片付けを職員と一緒にやっている。野菜の皮むきも時には手伝ってくれている。職員は利用者と同じ食事をとっていない。	○	一連の食事作りを利用者と職員は一緒に行っているの で、今後は利用者と職員が楽しみながら一緒に同じものを 食べてほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、午前中の中の入浴であるが、いつでも希望するときに入れることを利用者に伝えている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や能力等により、洗濯物(干し・たたみ)・リネン交換等の役割をお願いしている。ひとりで外食に出かけたり、併設のデイサービスのカラオケに毎日通ったり、干し柿作りや梅ジュース作り等の楽しみ事や気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や希望に応じて、散歩・買い物・外食等に出かけている。日常のゴミ出しにも参加してもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中に鍵をかけることの弊害を理解はしているが、外に出て行く可能性のある人や、食事の準備・入浴時等の職員体制もあり、代表者の考えにより、1日中鍵をかけている。	○	鍵をかけられたなら、自分の力では出ることの出来ない利用者の気持ちも考えて、職員の配置が十分なときや見守りを強化しながら1時間からでも施錠しない時間を設けてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回夜間と日中の想定で避難誘導訓練を実施している。運営推進会議において地域の協力体制をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は専門業者よりカロリー計算された食材で調理している。心身の状態に応じて個別に配慮している。食事量や水分量を毎日チェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は畳の部屋もあり、テレビ・ソファ・作品が飾られ家庭的な雰囲気でまとめられている、ベランダからは田園が広がっているのが良く見え、動物の姿や声、電車の音等で昔から聞いたり見たりしていた懐かしい風景が広がっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テーブルやイス、箆笥、衣装ケース、鏡台、家族の写真、寝具等の馴染みのあるものが持ち込まれていて、本人が落ち着いて過ごせる場所となっているように見受けられた。		